

平成26年度(2014)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター 一年報

平成28年2月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成26年度  
花・野菜技術センター年報  
目 次

**I 総 説**

1. 沿 革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職 員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建 物	5
8. 施設および備品	6

**II 作 況**

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

**III 事業の推進方向と成果の概要**

1. 研究部	11
2. 技術普及室	13

**IV 試験研究および地域支援等活動の課題名**

1. 花き野菜に関する試験	14
2. 栽培環境に関する試験	15
3. 病害虫に関する試験	16
4. 技術体系化に関する試験	17
5. 地域支援に関する試験等	17

**V 研修事業の概要**

1. 概要	18
2. 研修事業の推進	18
3. 北海道花き・野菜技術研修	19
4. 研修ほ場等作付概要	23

**VI 研究発表並びに普及事項**

1. 研究報告・資料	24
2. 印刷刊行物	26
3. 普及事項	26

**VII その他**

1. 職員の研修	27
2. 見学・参観	27
3. 研修生の受け入れ（研修事業以外）	28
4. 委員会活動	28
5. 公開デー2013の実施	29
6. 講師等の派遣	30
7. 各種委員	30

**VIII 自己点検への対応**

自己点検への対応	31
----------	----

# I 総説

## 1. 沿革

### (1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、道立農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

### (2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

### (3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

### (4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研

修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

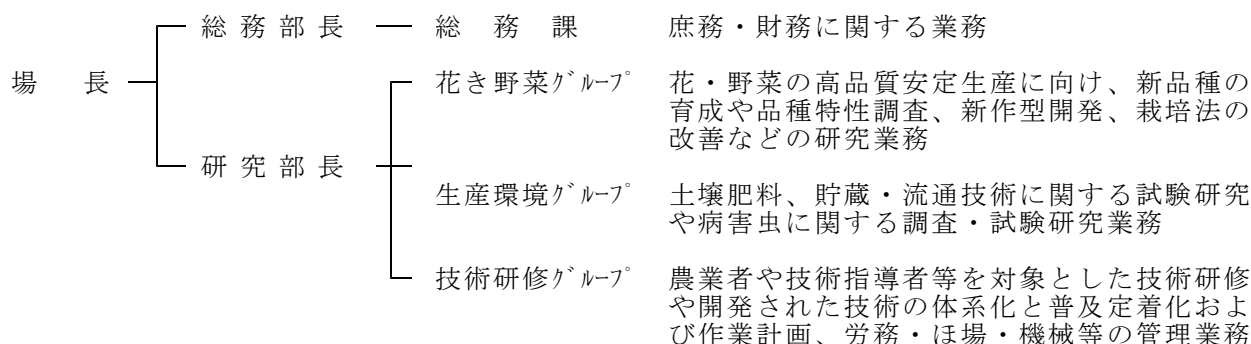
また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

## 2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′ 東経141° 59′

## 4. 機 構 (平成27年3月31日現在)



(花・野菜技術センター技術普及室\*)

上席普及指導員 — 主任普及指導員

\* 北海道農政部生産振興局技術普及課

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分(約1km)。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5~6分。

本センターは洪積台地(地形は低位段丘、平坦~緩傾斜)にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土(暗色表層疑似グライ土)である。しかし、圃場整備により、作土層(40cm)は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材(炭カル)を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

## 3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

## 5. 職 員

### (1) 職員数 (平成27年3月31日現在)

区 分	場 長	部 長	総 務 課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究 (プロパー)		1		8	6	3	18
研究支援 (プロパー)			3			5	8
研究支援 (道派遣)	1	1	3			2	7
計	1	2	(兼務1外数) 6	8	6	10	33

### (2) 現職員名簿 (平成27年3月31日現在)

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名	
総務部	場 長	小野 悟	生産環境G	主査(栽培環境)	後藤 英次	
	総務部長	舘山 巖		研究主査	田丸 浩幸	
	総務課長(兼)	舘山 巖		研究主査	野田 智昭	
	主査(総務)	白木 和美		主査(病虫)	橋本 直樹	
	主査(調整)	藤田 賢司		研究主査	白井 佳代	
	指導主任	岩橋 広樹		研究主幹	川岸 康司	
	主任	高松 誠治		主査(技術研修)	小田 義信	
研究部	主任	佐藤 勝宏	技術研修G	主査(技術研修)	鈴木 亮子	
	主任	土田 操		主査(研修)	新津 康子	
	研究部長	長尾 明宣		技 師	熊谷 美希	
	花き野菜G 研究主幹	田中 静幸		指導主任	及川 忠	
	主任研究員	生方 雅男			玉川 忠	
	主査(花き)	黒島 学		主 任	南 貴夫	
	研究主査	大宮 知			寺口 佳孝	
	主査(野菜)	福川 英司			梶山 幸道	
	研究主任	大久保 進一		(道技術普及室)	上席普及指導員	藤田 寿雄
	主任	八木 亮治			主任普及指導員	宮町 良治
主任	木村 文彦					
生産環境G	研究主幹	角野 晶大				

### (3) 転入・採用

職 名	氏 名	採用転入年月日	備 考
場 長	小野 悟	26. 4. 1	道農政部食の安全推進局食品政策課
総務部 部長	舘山 巖	26. 4. 1	北海道企業局総務課
総務部 総務課 主査(調整)	藤田 賢司	26. 4. 1	農業研究本部総務部総務課
研究部 生産環境G 主査(栽培)	後藤 英次	26. 4. 1	道総研本部企画部
研究部 技術研修G 主査(研修)	新津 康子	26. 4. 1	日高振興局保健環境部環境生活課

#### (4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
場 長	田 中 英 彦	2 6 . 4 . 1	上川農業試験場
総務部 部長	橋 本 裕 二	2 6 . 4 . 1	環境生活部環境局循環型社会推進課
総務部 総務課主査 (調整)	小 田 文 子	2 6 . 4 . 1	上川総合振興局産業振興部中部耕地出張所
研究部 生産環境G 主査(総務)	林 哲 央	2 6 . 4 . 1	道南農業試験場研究部地域技術G
研究部 生産環境G 研究主査	西 脇 由 恵	2 6 . 4 . 1	中央農業試験場病虫部クワ病害虫G
研究部 技術研修G 主査(研修)	得 能 撤	2 6 . 4 . 1	上川総合振興局地域政策部納税課

## 6. 収入支出決算額

### (1) 収入決算額 (単位：円)

科 目	決 算 額
農 産 物 売 払 収 入	389,476
不 用 品 売 払 収 入	0
法 人 財 産 使 用 料 等	396,733
そ の 他 雑 収 入	0
共 同 研 究 費 負 担 金	1,000,000
国 庫 受 託 研 究 収 入	4,238,000
道 受 託 研 究 収 入	2,419,000
そ の 他 受 託 研 究 収 入	14,948,000
計	23,391,209

※事業費支弁人件費振替額を含まない

### (2) 支出決算額 (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	0	0	0	0
重 点 研 究 費	0	0	0	0
職 員 研 究 奨 励 費	500,000	480,665	0	19,335
経 常 研 究 費	10,987,000	10,926,103	0	60,897
技 術 普 及 指 導 費	5,548,000	5,520,113	0	27,887
研 究 用 備 品 整 備 費	1,537,164	1,537,164	0	0
目 的 積 立 金 活 用 事 業 費	11,384,928	11,384,548	0	380
維 持 管 理 経 費	117,265,000	117,227,264	0	37,736
運 営 経 費	12,971,000	10,341,641	0	2,629,359
共 同 研 究 費	1,000,000	1,000,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	4,238,000	4,236,999	0	1,001
道 受 託 研 究 費	2,419,000	2,419,000	0	0
そ の 他 受 託 研 究 費	14,948,000	14,034,021	0	913,979
計	182,798,092	179,107,518	0	3,690,574

※事業費支弁人件費振替額を除く

## 7. 建物

### (1) 現有（平成27年3月31日現在）

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86 m <sup>2</sup>
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室－1	〃	166.00
〃－2	〃	166.00
〃－3	〃	166.00
野菜温室－1	〃	166.00
〃－2	〃	166.00
〃－3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室－1	〃	290.25
〃－2	〃	290.25
環境制御温室－1	〃	166.00
〃－2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟－1	〃	29.16
〃－2	〃	29.16

< 続き >

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.46 m <sup>2</sup>
〃 4	〃	26.46
〃 5	〃	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

## 8. 施設および備品

### (1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

### (2) 新たに購入した備品 (50万円以上)

品 名	数量	規 格 お よ び 型 式	金 額	配 置
低温恒温器及び付属品	1	北海道和光純薬(株) L T I - 1 0 0 0	586,764	生産環境G
テクスチャアナライザー 及び付属品	1	関販テクノ(株) 英弘精機(株) T A . X T . Plus	2,923,128	花き野菜G
熱回収外調機	1	木村工機(株) A R V - 2 0 0 0	4,498,200	花き野菜G
ガスクロマイトグラフ及び 付属品	1	(株)北海ケミカル G C - 2 0 1 4 A F	3,936,600	生産環境G



## Ⅱ 作 況

### 1. 気象概要

#### (1) 冬期間の経過

根雪始は平成25年11月27日で平年より3日遅かった。冬期間（11月～3月）の気温は、11月下旬～12月中旬、3月下旬が高く、11月中旬、1月中旬、2月上旬、3月上中旬が低く、変動がみられた。降水量は12月上旬にやや多かったが、全般に並であった。日照時間は、11月が少なく、2月下旬、3月中下旬がやや多い傾向であった。根雪終は4月23日で平年より9日遅かった。根雪期間は148日間で平年より5日長かった。

#### (2) 農耕期間の経過

晩霜は5月23日で平年より17日遅く、初霜は10月7日と平年より13日早かった。無霜期間は136日と平年より30日短かった。

農耕期間（5月から9月）の平均気温は6月上旬、7月中旬が著しく高く、9月中旬、10月上旬が著しく低かった。農耕期間の積算気温は2698.2℃で平年の99%であった。

降水量は5月上、下旬、6月下旬～7月中旬、8月下旬～9月上旬、9月下旬～10月下旬が少なく、6月中旬、7月下旬～8月上旬、9月中旬に多かった。とくに7月下旬は平年の448%の降雨があった。農耕期間を通しての積算降水量は583mmで平年の105%であった。

本年の農耕期間の気象は、6月上旬、7月中旬の高温、9月中旬、10月上旬の低温、6月下旬～7月中旬、8月中旬～10月下旬の寡雨傾向、7月下旬～8月上旬の多雨が特徴的であった。

#### (3) 月別の経過

4月：平均気温は中旬が低く、下旬は高かった。降水量は中下旬がやや少なかった。日照時間は中下旬が多かった。

5月：平均気温は上、下旬がやや高かった。5月29～31日は夏日となった。降水量は上、下旬がやや少なかった。日照時間は中旬がやや少なかった。

6月：上旬の平均気温は平年に比べ3.9℃、最高気温は5.7℃と著しく高く、夏日は10日、真夏日2日を記録した。降水量は中旬にやや多く、日

照時間は中旬が少なかった。

7月：平均気温は中旬が高かった。夏日は23日、真夏日は3日であった。降水量は中旬がやや少なく、下旬は多かった。日照時間は全般にやや多かった。

8月：平均気温は中下旬が低かった。夏日は17日、真夏日は4日であった。降水量は上旬に多かった。日照時間は下旬がやや多かった。

9月：平均気温は中旬が低かった。夏日は4日あった。降水量は上、下旬にやや少なく、中旬がやや多かった。日照時間は上、下旬がやや多かった。

10月：平均気温は上中旬が低かった。降水量、日照時間は並であった。

### 2. 野菜類の生育状況

#### (1) メロン（対象品種：「北かれん」）

4月21日定植の無加温半促成作型で栽培した。定植期の4月下旬から開花期の5月下旬まで平年に比べて日照時間が多く、気温も高かったことから初期生育及び着果は順調であった。6月中旬は曇天が続き、日照時間が少なかったため、生育はやや軟弱傾向であった。降水量は生育期全般で少なく、乾燥気味であった。そのため、病害の発生はほぼみられなかった。糖度は15.0%、一果重は1.87kg、良果収量は297kg/aであった。

#### (2) かぼちゃ（対象品種：「くりゆたか」）

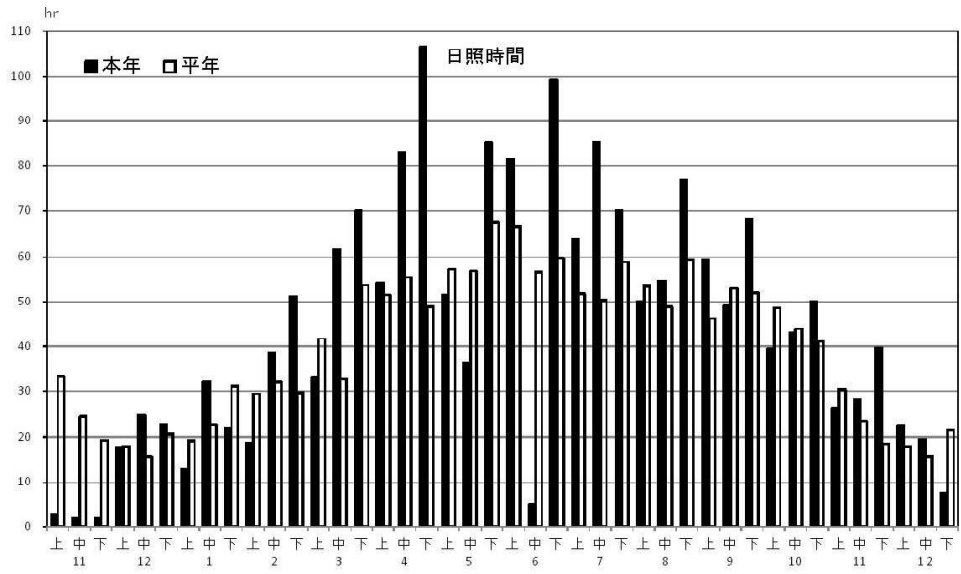
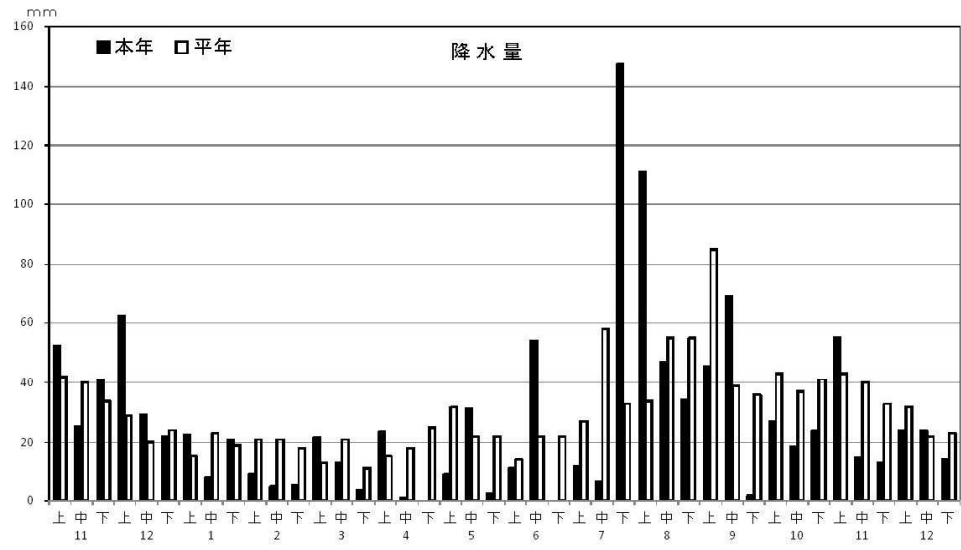
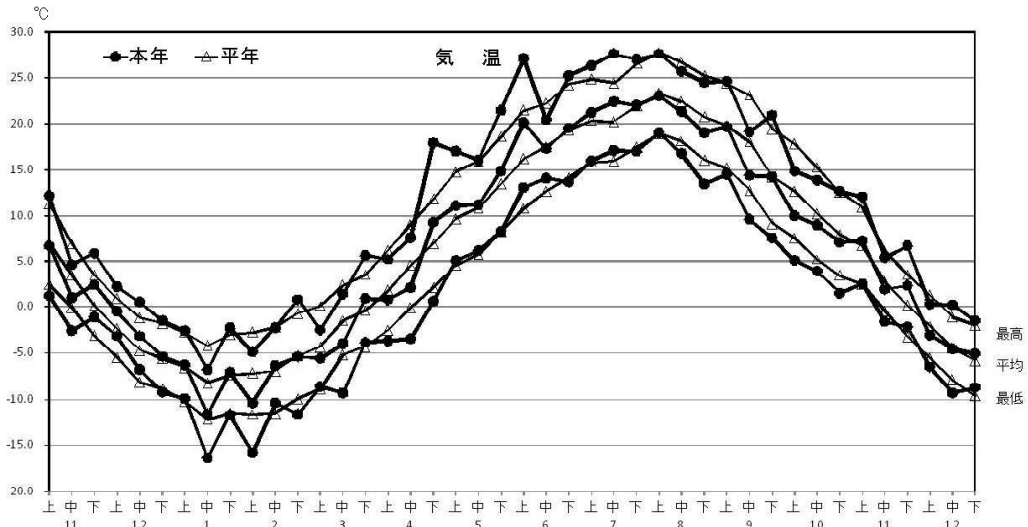
6月13日定植のセル成型育苗による露地早熟作型で栽培した。定植期の6月中旬は降水量が多かったものの、気温は平年並みであり、活着は順調であった。その後も、開花期である7月中旬まで気温が平年より高く、日照時間も多かったことから生育および着果が良好であった。7月下旬から8月上旬は降水量が多くなったが、気温は平年並みであったことから、果実肥大は順調であった。うどんこ病は7月下旬より発生し、8月中旬以降は圃場全体に蔓延した。一株当りの着果数および一果重は2.1果/株、1.73kgで、着果数がやや多く、一果重がやや軽い傾向であった。良果収量は181kg/aと平年並みであった。

### (3) いちご (対象品種:「けんたろう」)

平成25年8月26日定植の無加温半促成作型で土耕栽培した。ハウス内融雪期は3月25日、開花始期は4月21日とやや遅かったが、4月下旬の気温がやや高く多日照であったため、収穫始期は5月22日で平年並みとなった。6月上旬に高温、多日照でハウス内気温が上昇したことにより、一果重が急激に軽くなり、株疲れした。このため、総収量が2286kg/10aでやや少なく、規格内収量は1335kg/10aと平年より少なかった。Brixは9.8%で平年並みであった。

### (4) たまねぎ (対象品種:「スーパー北もみじ」)

播種期は3月8日、定植期は5月9日の普通作型で栽培した。出芽、苗生育は順調であった。定植後、気温はやや高く経過し、5月4半旬を除き降雨がほとんどなく、初期生育はやや遅れた。その後、地上部生育は回復し、7月中旬には旺盛な生育となった。生育盛期以降に著しい降雨があり、球肥大は停滞した。7月18日頃から、ヨトウムシ類の食害、ネギハモグリバエの食痕が目立ち、その後、ネギハモグリバエの食痕はまん延した。倒伏期は8月2日で、その時期に著しく降雨が多かったことから、枯葉は急速に進み、一球重は175gで球肥大は劣った、また、細菌性病害による貯蔵前腐敗球が多く発生し、総収量も261kg/a (平年比42%:圃場変更のため参考値)と、低収の年となった。



平成26年度滝川気象図

気象表 (平成25年11月～平成26年12月)

年月旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
上	6.7	7.0	△0.3	12.2	11.3	0.9	1.2	2.4	△1.2	52	42	10	5	6	△1	2.9	33.2	△30.3
11中	1.0	3.4	△2.4	4.6	6.9	△2.3	-2.6	-0.1	△2.5	26	40	△15	5	7	△2	2.1	24.3	△22.2
H25	2.4	0.1	2.3	5.3	3.4	2.5	-1.1	-3.1	2.0	41	34	7	8	△1	19.3	△17.2	△2.1	
上	-0.5	-2.4	1.9	2.2	0.9	1.3	-3.2	-5.5	2.3	63	29	34	7	6	1	17.7	17.9	△0.2
12中	-3.2	-4.7	1.5	-1.2	-1.7	0.5	-6.8	-8.1	1.3	30	20	10	5	6	△1	24.7	15.7	9.0
下	-5.4	-5.6	0.2	-1.5	-1.8	0.3	-8.2	-8.8	0.4	22	24	△2	8	7	1	22.7	20.7	2.0
上	-6.3	-8.5	0.2	-2.6	-2.8	0.2	-9.9	-10.2	0.3	23	15	8	8	5	3	13.1	19.1	△6.0
1中	-11.6	-8.2	△3.4	-6.8	-4.2	△2.6	-16.4	-12.2	△4.2	8	23	△15	4	6	△2	32.1	22.6	9.5
下	-7.1	-7.3	0.2	-2.3	-3.0	0.7	-11.7	-11.5	△0.2	21	19	2	9	6	3	21.9	31.1	△9.2
上	-10.4	-7.2	△3.2	-4.9	-2.8	△2.1	-15.8	-11.6	△4.2	9	21	△12	5	6	△1	18.7	23.4	△10.7
2中	-8.4	-6.9	0.5	-2.3	-2.2	△0.1	-10.4	-11.5	1.1	5	21	△16	4	7	△3	38.5	32.0	6.5
下	-5.4	-5.3	△0.1	0.8	-0.7	1.5	-11.6	-9.9	1.7	6	18	△13	3	4	△1	51.2	29.5	21.7
上	-5.6	-4.3	△1.3	-2.5	0.1	△2.6	-8.6	-8.8	0.2	22	13	9	7	5	2	33.0	41.8	△8.8
3中	-4.0	-1.5	△2.5	1.4	2.3	0.9	-9.3	-5.2	△4.1	13	21	△8	1	6	△5	61.6	32.6	29.0
下	0.9	-0.4	1.3	5.6	3.5	2.1	-3.9	-4.3	0.4	4	11	△7	2	4	△2	70.1	53.7	16.4
上	0.8	1.8	△1.0	5.2	6.2	△1.0	-3.7	-2.5	△1.2	24	15	9	6	5	1	54.1	51.6	2.5
4中	2.1	4.5	△2.4	7.6	9.1	△1.5	-3.5	-0.1	△3.4	1	18	△17	1	4	△3	83.1	56.4	27.7
下	9.3	7.0	2.3	17.9	11.8	6.1	0.6	2.1	△1.5	0	25	△25	0	5	△5	106.5	48.9	57.6
H26	11.1	9.7	1.4	17.0	14.8	2.2	5.1	4.5	0.6	9	32	△23	4	4	0	51.6	57.1	△5.5
上	11.2	10.9	0.3	16.1	16.0	0.1	6.2	5.8	0.4	32	22	10	5	2	3	36.4	56.7	△20.3
5中	14.9	13.5	1.4	21.4	18.6	2.8	8.3	8.3	0.0	3	22	△20	2	4	△2	85.2	87.7	△17.5
下	20.1	16.2	3.9	27.1	21.4	5.7	13.1	10.8	2.3	11	14	△3	3	3	0	81.7	66.7	15.0
上	21.2	20.3	0.9	26.3	24.8	1.5	16.0	15.8	0.2	12	27	△15	3	3	△1	63.8	51.8	12.0
7中	22.4	20.2	2.2	27.6	24.4	3.2	17.1	16.0	1.1	7	58	△52	3	3	0	85.3	50.3	35.0
下	23.0	21.9	0.1	27.0	26.5	0.5	17.0	17.4	△0.4	148	33	115	5	3	2	70.2	58.9	11.3
上	23.0	23.3	△0.3	27.6	27.7	△0.1	19.0	18.9	0.1	111	34	77	6	3	3	50.2	53.6	△3.4
8中	21.3	22.4	△1.1	25.7	26.7	△1.0	16.8	18.1	△1.3	47	55	△8	3	4	△1	54.7	48.9	5.8
下	19.0	20.7	△1.7	24.5	25.2	△0.7	13.5	16.1	△2.6	35	55	△21	4	4	0	76.9	59.4	17.5
上	19.6	19.8	△0.2	24.6	24.4	0.2	14.5	15.2	△0.7	46	85	△39	4	5	△1	58.4	46.3	13.1
8中	14.4	18.0	△3.6	19.1	23.1	△4.0	9.6	12.8	△3.2	69	38	30	6	4	2	49.2	53.1	△3.9
下	14.3	14.3	0.0	20.9	19.4	1.5	7.6	9.2	△1.6	2	38	△35	2	4	△2	68.1	52.0	16.1
上	10.0	12.7	△2.7	14.9	17.8	△2.9	5.1	7.6	△2.5	27	43	△16	4	5	△1	39.4	48.6	△9.2
10中	9.0	10.3	△1.3	13.9	15.3	△1.4	3.9	5.2	△1.3	19	37	△18	3	6	△3	43.2	44.0	△0.8
下	7.1	8.0	△0.9	12.7	12.6	0.1	1.5	3.4	△1.9	24	41	△17	3	5	△2	50.1	41.2	8.9
上	7.3	6.7	0.6	12.1	11.0	1.1	2.5	2.4	0.1	55	43	12	6	6	0	26.3	30.3	△4.0
11中	1.9	2.7	△0.8	5.4	6.1	△0.7	-1.6	-0.5	△1.1	15	40	△26	4	7	△3	28.1	23.3	4.8
下	2.3	0.2	2.1	6.7	3.5	3.2	-2.2	-3.3	1.1	13	33	△20	3	6	△3	39.7	18.5	21.2
上	-3.1	-2.1	△1.0	0.3	1.2	△0.9	-6.5	-5.6	△0.9	24	32	△8	5	6	△1	22.4	18.0	4.4
12中	-4.6	-4.5	△0.1	0.2	-1.1	1.3	-9.3	-7.9	△1.4	24	22	2	4	6	△2	19.5	15.7	3.8
下	-5.1	-5.8	0.7	-1.5	-2.0	0.5	-8.7	-8.6	0.8	14	23	△9	5	7	△2	7.5	21.5	△14.0
5～9月積算	2698.2	2736.7	△37.5	3544.3	3466.3	79.0	1943.7	1996.6	△52.9	563	556	27	58	51	7	937.1	838.8	98.3
平年比(%)	98.6	102.3	97.4	104.8	113.7	111.7												

注1 滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。注2 日照時間は太陽電池式(新型)による。注3 平年値は前10カ年の平均値。注4 △印は減を示す。

季節調査

平成25年 平成26年

初霜	降雪始	根雪終	根雪期	根雪終	根雪終	最大積	左起日	耕始	耕始	晩霜	初霜	無霜期	降雪始	根雪始	年間(日)	
															月・日	月・日
10.17	11.8	11.27	4.23	4.11	(145)	(3.9)	4.23	5.23	10.7	136	11.3	12.4				
10.20	11.5	11.24	4.14	4.22	119	2.21	5.5	5.6	10.20	166	11.5	11.23				
△3	3	9	5	△11	-	-	△12	17	△13	△30	△2	11				

注1 花・野菜技術センター観測資料による。ただし、かつこ内は滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。

注2 平年値は前10カ年の平均値。注3 △印は減または早を示す。

## Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

### 1. 研究部

#### (1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。野菜では、いちごの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜とともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

①「市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立」では、市場クレームの発生要因解明、前処理および輸送方法の改善に対応する試験を行った。②「シネンシス系デルフィニウム「さくらひめ」の地域適応性評価」では、愛媛県で育成されたデルフィニウム品種「さくらひめ」についての北海道での適応性を検定した。③「花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の改善と実証」では、スプレーカーネーション、デルフィニウム、ダリア、スターチス類の品質管理実態を調査し、前処理、輸送処理方法を検討し、後処理の効果を明らかにした。④「良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の開発」では、愛知県、長崎県、花き研究所で育成された品種・系統に関して北海道の適応性を検定するため、本年度は定植した。⑤「野菜地域適応性検定のうち、いちごでは、「空知35号」、「空知36号」を継続検討することとし、「空知34号」は中止した。たまねぎでは、「北見交65号」「北見交68号」を継続検討する。⑥「低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立」では、高温期における被覆資材による温度上昇抑制および低温期における保温効果を明らかにした。⑦「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種を目標に、交配および系統育成の選抜を行った。⑧「北海道の冬期ハウス環境に対応可能な長期収穫いちご栽培の炭酸ガス施用方法」では、外気と内気循環の組合せによって効率的な運用が可能であることが明らかとなった。引き続き経常研究にて効果を確かめる試験を行うこととなった。⑨「施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発」では、炭酸ガスの施用効果に品種間差があることが明らかとなった。

⑩「夏秋期の早期出荷による道産シェア拡大に向けた8、9月どり露地ねぎの品種特性」では、露地夏秋期どりのねぎの評価法を提案し、品種特性が明らかとなった。また、北海道でのブランド品種が選定された。⑪「北海道ブランドかぼちゃ品種の生産促進実証」では、選定されたブランド品種の大規模試作と貯蔵の実証試験を行った。⑫「共同育成した赤肉メロン「空知交23号」の特性評価」では、ハウス抑制作型において、「空知交23号」の特性を明らかにした。⑬「共同育成赤肉メロン品種「北かれん」の高品質生産技術の開発」では、無加温半促成作型における「北かれん」について、マルチの種類や仕立て法などにより果実肥大性や果実外観品質（結果枝）への効果を確かめた。⑭「MA包装フィルム「Xtend」によるブロッコリーおよびメロンの鮮度保持特性の評価」では、MA包装鮮度保持フィルム「Xtend」による鮮度保持効果について、道産赤肉メロンを12月に出荷するための問題点を明らかにした。⑮「種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立 1. 新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立」では、種子イチゴ「よつぼし」に関する北海道における花成反応を明らかにし、低温期に育苗、定植し、その後の栽培期間が高温・長日条件で経過する北海道の高設栽培夏秋どり作型の本圃直接定植法を検討した。⑯「農業資材試験」では、にんじん、やまのいも、キャベツに対する除草剤それぞれ1点について成績をとりまとめた。

#### (2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

**栽培環境に関する試験:**①「春夏まきレタスの窒素施肥法改善と食味評価に基づく品質向上技術の開発」では、結球レタスおよび非結球レタスの窒素吸収特性を解析するとともに、分施および緩効性肥料使用が収量・品質等に及ぼす影響を検討した。②「低コストに向けた湛液型養液栽培システ

ムおよび果菜類栽培法の確立」では、栽培液中の無機成分の推移をモニタリングし、pHや塩基類の蓄積等を確認するとともに、地上部の生育に及ぼす影響を検討した。③「露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果」では、4段階に溶出特性が異なる被覆窒素肥料を、全量基肥作条施用および全層基肥全層施用して栽培し、生育や収量を調査することにより、分施を伴う慣行の施肥と比較検討した。④「北海道におけるサツマイモの乾物生産特性に基づく肥効調節型肥料の利用法の確立」では、3段階に溶出特性が異なる被覆窒素肥料を用いてさつまいもを栽培することにより、その窒素吸収特性や収量に及ぼす影響を検討した。⑤「北海道におけるさつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培技術開発」では、寒冷地に適した栽培管理技術を明らかにするため、作型、栽植密度苗の挿し方等を変えて栽培し、収量、品質、窒素吸収量などへの影響を調査するとともに、収穫後の貯蔵法について検討した。これまでの成果から、北海道における栽培指針を策定し、「北海道におけるさつまいもの栽培特性」として普及推進事項となった。⑥「MA包装フィルム「Xtend」によるブロッコリーおよびメロンの鮮度保持特性の評価」では、北海道産ブロッコリー（8月（夏品）、9月（秋品））を用いて、「Xtend」およびポリエチレンフィルムで密封と慣行の水詰め発泡スチロール貯蔵を比較することにより、「Xtend」の鮮度保持特性や貯蔵温度、収穫時期の影響を検討した。⑦「生理障害診断試験」では11件の診断依頼に対応した。⑧「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、3地区7点の土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。⑨「農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業（農地管理実態調査）」では、5地区20点の土壌を調査した。

**病害虫に関する試験：**①「すいかの炭疽病防除対策の確立」では、伝染源、果実のステージ、トンネルの形態などの発生要因を解明するとともに、育苗期間とトンネル除去直後からの薬剤のローテーション散布による効果的な防除対策を示し、「スイカ炭疽病の防除対策」としてとりまとめ、指導参考事項となった。②「農作物病害虫診断試験」では、86件の診断依頼に対応した。③「春どり作型向け多収性いちご新品种の育成」

では、検定系統3系統について疫病、萎黄病、萎凋病の特性検定を実施した。④「ミニトマトの主要病害に対する効率的防除対策の確立」では、斑点病、葉かび病、すすかび病の主要産地での発生および被害実態、発生要因、作型や品種別の発生推移、斑点病と葉かび病に対する薬剤の効果などを調査した。⑤「たまねぎ突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立」では、灰色腐敗病菌の接種時期や根切り・収穫時期と発病の関係および防除適期や回数を検討するとともに、現地での発生状況や栽培・防除暦を調査した。各処理サンプルの貯蔵後の発病調査を実施して、成績をとりまとめる予定である。⑥「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病、予察灯によるヨトウガ等、フェロモントラップによるコナガについて、時期ごとの発生量などを調査した。⑦「農業資材試験」では、殺菌剤8点および殺虫剤11点についてその効果を調査した。また、複数事例で有効性が認められた8点の資材が指導参考事項となった。

### (3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

**1) 革新的技術導入による地域支援：**①「ビブルナム「スノーボール」抑制開花の品質向上と台つけ仕立ての実証」では、スノーボールの切り枝抑制開花枝の開花品質および日持ち性向上を図るため、開花管理技術および品質保持技術の実証、台つけ仕立ての永続性の実証を行った。本年度、抑制開花に取り組んだ生産者は5戸で昨年より3戸減少したが、出荷本数・販売金額は5割以上増加し、生産規模は拡大した。抑制開花作業はパイプハウスに遮光資材を展張した簡易な施設で行っており、温度の変動が激しかった。開花処理の生け水に糖を加えることにより花房のボリュームや形状が改善した。5月の現地調査ではほとんどのほ場で台つけが徹底されておらず、株の状態は不揃いであったが、講習会等を通して株管理法の理解が進み、11月の調査では7戸において分枝が整理され、台つけ可能な株が増加していた。収穫枝の基部はすべての芽を切除した方が、その後発生する当年

枝数が多くなる傾向が認められた。

## 2. 技術普及室

### (1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業および農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

### (2) 成果の概要

#### 1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策について積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクトに参画した。

#### 2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する補完要請計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点普及課題、普及課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病虫害発生対策について技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き、野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか研究部からの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

### 3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による経営管理研修や担い手基礎研修、農大稲作経営コース集中講義の研修に支援を行った。

### 4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、生産者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

## IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

### 1. 花き野菜に関する試験

#### (1) 市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立 (213251)

試験期間：平成25～27年

担当G：花き野菜G

目的：ダリアの市場クレームに対応する前処理技術および市場出荷方法の改善技術を確立する。

#### (2) シネンシス系デルフィニウム「さくらひめ」の地域適応性評価 (723261)

試験期間：平成26～27年

担当G：花き野菜G

目的：道内のデルフィニウム産地が栽培を希望している愛媛県育成シネンシス系デルフィニウム「さくらひめ」導入のため、北海道の夏秋期出荷作型における地域適応性を既存の品種と比較検討し、栽培マニュアル作成を作成する。

#### (3) 花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の改善と実証 (723263)

試験期間：平成26年

担当G：花き野菜G

目的：北海道の主要な切り花品目について、これまで開発されてきた品質保持技術の改善と実証を行う。

#### (4) 良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の開発 (623260)

試験期間：平成26～28年

担当G：花き野菜G

目的：従来品種より観賞期間が長く、安定生産の阻害要因となる萎凋細菌病抵抗性を有し、暖地および寒冷地の産地に適応するカーネーション品種を育成するため、選抜系統の寒冷地作型における特性評価を行う。

#### (5) 野菜地域適応性検定（いちご、メロン、たまねぎ） (213300)

試験期間：昭和63年～

担当G：花き野菜G、上川農試、道南農試、十勝農試、北見農試

目的：育成系統について各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

#### (6) 低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立 (213461)

試験期間：平成26～27年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：トマト短期どり栽培を通じて湛液型養液栽培システムの基本的特性を明らかにするとともに長期どりおよび大規模栽培技術開発に向けた基礎的データを収集する。

#### (7) 春どり作型向け多収性いちご新品種の育成 (213351)

試験期間：平成25～29年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種（現行基準収量：2t/10a→目標収量：2.5t/10a）を育成する。

#### (8) 北海道の冬期ハウス環境に対応可能な長期収穫いちご栽培の炭酸ガス施用方法 (723461)

試験期間：平成26年

担当G：花き野菜、工試、北総研

目的

北海道における植物工場において高収量を目指すための、炭酸ガス施用効果を検討する。

#### (9) 施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発 (627351)

試験期間：平成25～27年

担当G：花き野菜

目的

寒冷地園芸施設向けの低コストで実用的な地中熱ヒートポンプシステムの開発および評価を行う。

#### (10) 夏秋期の早期出荷による道産シェア拡大に向けた8、9月どり露地ねぎの品種特性 (333331)

試験期間：平成25～26年

担当G：花き野菜G、技術研修G、道南農試

目的：民間種苗会社と提携して民間育成品種



種の評価を行い、北海道向けブランド品種を選定する。

**(11) 北海道ブランドかぼちゃ品種の生産促進実証 (333352)**

試験期間：平成25～26年

担当G：花き野菜G

目的：選定されたブランド品種の大規模試作と貯蔵の実証試験を行い、収穫時以降の管理工程上の問題点を整理して、冬至出荷に向けたマニュアルを整備する。

**(12) 共同育成した赤肉メロン「空知交23号」の特性評価 (513361)**

試験期間：平成26年

担当G：花き野菜G

目的：ハウス抑制作型において、えそ斑点病やうどんこ病の発生により、生産性に課題がある小規模な産地・生産者で、共同育成中の赤肉F<sub>1</sub>系統「空知交23号」の特性を明らかにする。

**(13) 共同育成赤肉メロン品種「北かれん」の高品質生産技術の開発 (513362)**

試験期間：平成26～27年

担当G：花き野菜G

目的：無加温半促成作型（低温期、4月中～下旬定植）における「北かれん」について、果実肥大性や果実外観品質（結果枝）を向上させる栽培技術を開発する。

**(14) MA包装フィルム「Xtend」によるブロッコリーおよびメロンの鮮度保持特性の評価 (723462)**

試験期間：平成26年

担当G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装鮮度保持フィルム「Xtend」による鮮度保持効果について、道産ブロッコリーの道外移出および道産赤肉メロンを12月に出荷するための一方法として明らかにする。

**(15) 種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立 1. 新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立 (7) 北海道**

**における花成反応の解明と活用 (623351)**

試験期間：平成25～27年

担当G：花き野菜G

目的：機関連携試験による「系統23」の基礎的花成特性解明のため、北海道における花成反応を明らかにするとともに、低温期に育苗、定植し、その後の栽培期間が高温・長日条件で経過する北海道の高設栽培夏秋どり作型の本圃直接定植法を確立する。

**(17) 農業資材試験 (729400)**

試験期間：昭和40年～

担当G：花き野菜G

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

**2. 栽培環境に関する試験**

**(1) 春夏まきレタスの窒素施肥法改善と食味評価に基づく品質向上技術の開発 (325361)**

試験期間：平成26～28年

担当G：生産環境G、花き野菜G

目的：品質の優れた春夏まき道産レタスを生産するため、レタスの窒素吸収特性に基づき、窒素施肥法の見直しを図る。また、レタスの食味評価法を開発し、適品種を選定する。

**(2) 低コストに向けた湛液型養液栽培システムおよび果菜類栽培法の確立 (213461)**

試験期間：平成26～27年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：低コストで製作できる湛液型養液栽培システムにおける短期どり栽培でのトマト栽培を通して、湛液型養液栽培システムの基本的特性を明らかにする。

**(3) 露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果 (725351)**

試験期間：平成25～27年

担当G：生産環境G

目的：ネギ省力安定生産のために露地春まきネギに対する被覆窒素肥料の施用効果を検討し、全量基肥栽培を可能とする銘柄を選定する。

**(4) 北海道におけるサツマイモの乾物生産特性に基づく肥効調節型肥料の利用法の確立 (723361)**

試験期間：平成26～27年

担当G：生産環境G

目的：北海道で栽培されるさつまいもの乾物生産特性に基づいた肥効調節型肥料を選定する。

**(5) 北海道におけるさつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培技術開発 (333341)**

試験期間：平成24～26年

担当G：生産環境G

目的：寒冷地で栽培するさつまいもについて、道外産並の収量と品質を確保する栽培法・貯蔵法を明らかにし、道内での栽培の定着・産地支援を図る。

**(6) MA包装フィルム「Xtend」によるブロッコリーおよびメロンの鮮度保持特性の評価 (723462)**

試験期間：平成26年

担当G：生産環境G、花き野菜G

目的：道産ブロッコリーの道外移出および道産赤肉メロンを12月に出荷するための方法として、MA包装フィルム「Xtend」の鮮度保持能力を明らかにする。

**(7) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験 (216500)**

試験期間：平成8年～

担当G：生産環境G

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて当場に診断を依頼される農産物の生理障害による異常障害などを迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を策定する。

**(8) 農業農村整備事業等に係る土壌調査 (455900)**

試験期間：昭和40年～

担当G：生産環境G、各農試の同Gと分担

目的：土地改良計画地域の土壌を実施し、必要な改良指針を策定する。

**(9) 農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業 (農地管理実態調査) (735951)**

試験期間：平成25～32年

担当G：生産環境G、各農試の同Gと分担

目的：全国の農耕地における土壌炭素の貯留量と営農管理による変動を明らかにする一環として、北海道の農耕地で調査を行う。

### **3. 病害虫に関する試験**

**(1) すいかの炭疽病防除対策の確立 (216342)**

試験期間：平成24～26年

担当G：生産環境G

目的：北海道の栽培に対応したすいかの炭疽病防除対策を確立する。

**(2) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験 (216500)**

試験期間：昭和50年～

担当G：生産環境G

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

**(3) ミニトマトの主要病害に対する効率的防除対策の確立 (326362)**

研究期間：平成26～28年

担当G：生産環境G

目的：道内におけるミニトマトの安定生産を支えるために、主要病害の発生・被害実態を明らかにし、これらに対する効率的な総合防除対策を確立する。

**(4) たまねぎの突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立 (426331)**

研究期間：平成23～26年

担当G：生産環境G

目的：たまねぎで突発的に多発生する灰色腐敗病およびべと病の多発条件を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。当場では灰色腐敗病を担当している。

**(5) 病害虫発生予察調査 (426500)**

研究期間：昭和16年～

担当G：生産環境G

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当场ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

**(6) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤 (729400)**

研究期間：昭和45年～

担当G：生産環境G

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

**4. 技術体系化に関する試験**

本年は該当なし

**5. 地域支援に関する試験等**

**(1) ビブルナム「スノーボール」抑制開花の品質向上と台つけ仕立ての実証 (319900)**

試験期間：平成26～27年

担当G：技術研修G、花き野菜G

目的：スノーボールの切り枝抑制開花枝の開花品質および日持ち性向上を図るため、開花管理技術および品質保持技術を実証する。また、台つけ仕立ての永続性の実証を行う。

## V 研修事業の概要

### 1 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

### 2 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等に対し事業説明を実施するとともに、各種見学説明会等を開催したほか、円滑な研修の実施に資するため、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、実施・運営等についての検討・調整を行った。

#### (1) 研修事業説明の経過

- 1) 5月9日  
平成26年度北海道高等学校長協会農業部会総会及び第1回学校研究協議会
- 2) 11月1日  
新・農業人フェア2014（札幌会場）
- 3) 1月20日  
新規参入予定者（新規参入者研修(農大)）
- 4) 1月26日  
新規参入予定者（ベーシックセミナー）
- 5) 2月18日  
平成26年度地域農業技術センター連絡会議研究交流会

#### (2) 事業課との打合せ

- 1) 7月10～11日  
相手方 北海道農政部農業経営課  
内容 研修事業の概要説明、検証状況の視察、意見交換
- 2) 3月11日  
相手方 北海道農政部農業経営課、農業研究本部  
内容 平成26年度研修事業結果と平成27年度研修事業予定の説明、意見交換

#### (3) 専門委員会開催内容

#### 1) 研修事業運営委員会の構成

（平成26年4月現在）

- 委員長 川岸康司（技術研修G研究主幹）  
副委員長 小田義信・鈴木亮子（技術研修G）  
委員 白木和美・藤田堅司（総務課）、黒島学・福川英司（花き野菜G）、後藤英次・橋本直樹（生産環境G）  
オブザーバー 藤田寿雄（上席普及指導員 技術普及室）、宮町良治（主任普及指導員 技術普及室）  
事務局 新津康子・熊谷美希（技術研修G）

#### 2) 開催内容

##### ①第1回委員会（11月4日）

- ・協議事項  
ア. 平成26年度花・野菜ベーシックセミナーの時間割について  
イ. 平成27年度北海道花き・野菜技術研修の募集要領について

##### ②第2回委員会（12月24日）

- ・協議事項  
ア. 花・野菜新技術セミナー2015について
- ・報告事項  
ア. 平成26年度花・野菜ベーシックセミナーについて

##### ③第3回委員会（1月29日）

- ・報告事項  
ア. 花・野菜新技術セミナー2015について

##### ④第4回委員会（3月18日）

- ・報告事項  
ア. 平成26年度研修事業実績について  
イ. 平成27年度総合技術研修受講予定者について
- ・協議事項  
ア. 平成27年度研修事業(案)について  
イ. 平成27年度総合技術研修カリキュラム(案)について

### 3 北海道花き・野菜技術研修

#### (1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

##### 1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	5名
野菜栽培コース	4名
土壌肥料コース	2名
土壌肥料及び病害虫コース	2名
合 計	13名

##### 2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
越崎 暁	ホクレン	5/19～5/30	野菜栽培管理と肥料試験圃場設置等
遠藤芳幸	肥料(株)	(10日間)	
水田卓志	ホクレン	5/19～7/11	土壌診断と病害虫防除技術
大館泰彦		(30日間)	
茂古沼隼生	ホクレン	6/9～9/19	野菜栽培管理と園芸資材利用技術
古谷徳紀	長沼町	8/27～10/17	いちごの栽培管理
		(3日間)	
南部達彦	新篠津村	10/9～10/31	トルコギキョウの栽培管理
		(16日間)	
水留 大	拓殖短大	11/3～11/4	いちごの作物体分析
菅原直樹		(2日間)	
竹内常雄	北空知広	2/2～3/20	ダリアのウイルスフリー化と挿し芽増殖の技術習得
佐藤松文	域農業協	(4日間)	
平泉真美	同組合連		
春木佐栄子	合会		

#### (2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

##### 1) 期間

4月9日～10月8日 (6ヶ月間)

##### 2) 受講者数

花きコース 1名

野菜コース 6名

#### 3) 総合技術研修の受講者

氏 名	所属等	備 考
南部 達彦	新篠津村	花きコース
国分 圭亮	北見市	野菜コース
菅野 美咲	名寄市	野菜コース
硯 美菜子	奈井江町	野菜コース
田中 匠	当別町	野菜コース
畑中 和人	北海道NOSAI	野菜コース
倉知 素子	岩見沢市	野菜コース

#### 4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時 間
講義	・土壌肥料(後藤主査(生産環境G))	花き 74時間
	・病害虫防除(角野研究主幹、橋本主査、白井研究主査(生産環境G))	野菜 75時間
	・施設資材利用等(外部講師)	
	・主要花き栽培技術等 (生方主任研究員、黒島主査、大宮研究主査(花き野菜G)、藤田上席普及指導員(技術普及室)、鈴木主査(技術研修G))	
	・主要野菜栽培技術等 (田中研究主幹、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、宮町主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G))	
	・雑草防除の基礎(岸田職員)	
	・土壌の生成及び土壌改良(野田研究主査(生産環境G))	
	・花きの出荷調整と品質保持(黒島主査(花き野菜G))	
	・花きの流通と市場システム(藤田上席普及指導員(技術普及室))	
	・野菜の流通と野菜システム(宮町主任普及指導員(技術普及室))	
	・青果物鮮度の内部品質と保持(田丸研究主査(生産環境G))	
	・経営管理(外部講師)	
	・クリーン農業(外部講師)	
	・農業金融制度(空知総合振興局)	
	・その他(小野場長、長尾研究部長、藤田上席普及指導員(技術普及室)、田中研究主幹(花き野菜G))	

演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要花き栽培等（黒島主査、大宮研究主査(花き野菜G)、鈴木主査(技術研修G)）</li> <li>・主要野菜栽培等（田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、宮町主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)）</li> <li>・土壌診断等(野田研究主査(生産環境G))</li> <li>・病害虫防除技術(角野研究主幹、橋本主査(生産環境G))</li> <li>・園芸資材の実際（外部講師）</li> <li>・ハウス組立（小田主査、梶山主任ほか(技術研修G)）</li> </ul>	花き 83.5時間 野菜101.5時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要花きの栽培管理（花き10品目(講師は講義・実習と同じ)）</li> <li>・主要野菜の栽培管理（野菜15品目(講師は講義・実習と同じ)）</li> </ul>	花き528.5時間 野菜518.5時間
視察	卸売市場、先進農家等	花き 38時間 野菜 33時間
その他	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	花き 151時間 野菜 147時間
合計		花き 875時間 野菜 875時間

鈴木主査(技術研修G)	野菜 10時間	野菜：福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、宮町普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)
後藤主査(生産環境G)	3時間	角野研究主幹、橋本主査(生産環境G)
外部講師	2時間	外部講師
黒島主査(花き野菜G)	花き 2時間	黒島主査(花き野菜G)
田丸研究主査(生産環境G)	野菜 2時間	田丸研究主査(生産環境G)
外部講師	1時間	外部講師
外部講師	3時間	外部講師
農業者ほか	2時間	農業者ほか
〃ほか	2時間	〃ほか
小野場長、藤田上席普及指導員(技術普及室)	1時間	小野場長、藤田上席普及指導員(技術普及室)
計	花き野菜 各 30時間	

### (3) 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

#### 1) 期間

1月26日～1月31日（5日間）

#### 2) 受講者数

花きコース 5名

野菜コース 22名

#### 3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	花き 2時間 野菜 2時間	生方主任研究員、 田中研究主幹(花き野菜G)
主要品目の栽培技術	花き 10時間	花き：生方主任研究員、 黒島主査、大宮研究主査(花き野菜G)、

### (4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

#### 1) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

日時 平成26年6月26日

場所 花・野菜技術センター 講堂

内容

- ・研究概要の紹介
- ・研修圃場の紹介
- ・意見交換

受講者数 15名

## 2) フラワーリーダー養成講座

若手農業者を対象に、北海道（農政部農産振興課）と共催で、道外先進農家から指導を受ける講座を開催した。

日 時 平成26年9月11日～9月12日

場 所 生産者施設  
花・野菜技術センター 講堂

内 容

- ・講座「時代をリードする商品開発のためのマーケティング」

（講師：(株)フラワースピリット 代表取締役 上條信太郎氏）

- ・花・野菜技術センター試験ほ場見学
- ・現地見学～生産ほ場見学（江別市）

受講者数 14名

## 3) 花きセミナー2014

道内における花きの高品質安定生産に向けての情報、意見交換を行った。

日 時 平成26年11月6日

場 所 北海道自治労会館中ホール（札幌市）

内 容

講演

- ・花の品質保持技術をめぐる最新の話題  
（独）農業・食品技術総合研究機構 花き研究所

所長 市村一雄氏

- ・道総研における品質保持関係の研究について

花・野菜技術センター 黒島 学

- ・産地における品質保持の取組みについて  
北空知広域農業協同組合連合会

川名淳二氏

- ・輸送流通部門における品質保持の取組みについて

ホクレン種苗園芸部 塩澤耕二氏

- ・小売店における品質保持の取組みについて  
（株）花佳 代表取締役 薄木健友氏

- ・花きをめぐる情勢について  
北海道農政部農産振興課

受講者数 86名

## 4) かぼちゃセミナー2014

かぼちゃ生産に係る新技術と病害対策の紹介及び先進産地の現状と課題について発表し、出席者間で情報意見交換を行う。

日 時 平成26年11月18日

場 所 旭川市大雪クリスタルホール大会議室

内 容

講演

- ①実需者からの北海道産かぼちゃの評価と今後の期待

エム・ヴィ・エム商事株式会社 安藤元貴氏

- ②かわいかぼちゃ「坊ちゃん」の作り方

上川農業試験場地域技術G 江原 清

- ③加工・業務向けかぼちゃの供給期間拡大技術

花・野菜技術センター花き野菜G 八木亮治

- ④近年かぼちゃ果実に多発する各種病害の症状と突起果の防除対策

上川農業試験場生産環境G 新村昭憲

- ⑤和寒町におけるかぼちゃ生産の取組み

上川農業改良普及センター士別支所 布目暁洋

- ⑥赤井川村におけるかぼちゃ生産の取組み

後志農業改良普及センター北後志支所

南辻牧子

受講者 161名

## 5) 花・野菜新技術セミナー2015

平成26年度に新たに開発した花・野菜の品種や栽培技術などの研究成果を農業関係者などに対し発表し、速やかな普及定着を図るため開催した。

日 時 平成27年2月24日

場 所 たきかわ文化センター 小ホール

内 容 平成26年度の成績会議で普及奨励若しくは指導参考事項等となった技術（品種）等の伝達

(1) 新技術伝達

- ①美味しくて病害に強い秋どり赤肉メロン「空知交23号」

花・野菜技術センター 花き野菜G 福川英司

- ②北海道でもできる！美味しいさつまいものつくり方

花・野菜技術センター 生産環境G 野田智昭

- ③味はナッツ！タネを食べるペポかぼちゃのつ

くり方

上川農業試験場 地域技術G 江原 清

④8,9月どり露地ながねぎの品種特性

花・野菜技術センター 技術研修G 小田義信

⑤スイカ炭疽病を多発させない効果的な防ぎ方!

花・野菜技術センター 生産環境G 角野晶大

(2) 農業改良普及センターからの調査研究事例

の紹介

①たまねぎ早期出荷向け品種の選定について

空知農業改良普及センター 中空知支所

山崎和也

(3) 情報提供

①花きの品質保持関係の成果について

花・野菜技術センター花き野菜G 黒島 学

受講者 100名

## (5) 市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

### 1) 市民園芸セミナー

日 時 平成26年5月9日

場 所 花・野菜技術センター講堂

内 容

・安心できる野菜づくり

(講師：技術普及室 宮町良治主任普及指導員)

参加者数 22名

### 2) フラワーデザインセミナー

日 時 平成25年8月 5日

場 所 花・野菜技術センター (講堂)

内 容

・フラワーアレンジメント教室

(講師：池坊光明流清美会 宮西祥香氏ほか)

参加者数 21名

## (6) その他の研修

### 1) 北海道大学大学院移動講義

日 時 平成26年6月27日

場 所 花・野菜技術センター

内 容

講義「アレロパシーの最新情報と農業分野で

の活用」(講師：東京農工大学大学院

教授 藤井義春氏)

試験圃場視察

参加者数 32名

## 2) 自治体職員教育交流研修員受入事業 (滝川市国際交流事業)

日 時 平成26年7月30日～7月31日

場 所 花・野菜技術センター

内 容 野菜栽培概論、病害虫、土壌肥料等

参加者数 5名 (モンゴル国)

## 3) 農業大学校(稲作経営専攻コース)研修生受入事業

日 時 平成26年8月25日～8月29日

場 所 花・野菜技術センター

内 容 花・野菜技術センターの概要等

参加者数 9名

## 4) JICA研修員受入事業 (滝川市国際交流事業)

日 時 平成26年8月27日

場 所 花・野菜技術センター

内 容 花・野菜技術センターの概要等

参加者数 8名 (モザンビーク共和国)

## 5) インターンシップ「試験研究体験ゼミナール」

日 時 平成26年9月1日～9月5日

場 所 花・野菜技術センター

内 容 研究補助、作業体験等

参加者数 4名 (北海道大学学生)

## 6) 新十津川中学校「職場体験学習」

日 時 平成26年9月25日～9月26日

場 所 花・野菜技術センター

内 容 研究補助、作業体験等

参加者数 2名 (新十津川中学校2年)

## 7) 農業大学校(新規参入者研修)研修生受入事業

日 時 平成27年1月20日～1月23日

場 所 花・野菜技術センター

内 容 園芸の最新技術と農業経営の現状等

参加者数 10名



#### 4 研修ほ場等作付概要

区分	品 目	品 種	作 型
花き	デルフィニウム	シネンシス系(スーパーグラブル、スーパープ ラチナブルー、スーパーハッピーピンク)、エラ タム系(トリトンライトブルー)	4月まき無加温9月切り
	スプレーカーネー ション	アメリ、ピンクビジュ、チェリーテッシノ	5月定植無加温8~9月切り
	スターチス・シヌ アータ	フレンチバイオレット、ピンクキッス、ネオブル ー、ネオアラビアン、ゴールドラッシュ	5月植え無加温8月切り
	トルコギキョウ	レイナホワイト、コレゾライトピンクほか	5月定植無加温8~9月切り
	ゆり	OHユリ(シベリア、ソルボンヌ) LAユリ(アラジンズダズル、ロイヤルトリニティ)	6月植え無加温夏秋切り(冷凍球 利用)
	ダリア	彩雪、黒蝶	6月定植無加温9~10月切り
	ミニシクラメン	湘南ミニレッド、湘南ミニホワイト、ベラノ・ラ イトサーモンピンク、ベラノダークバイオレット	晩秋~初冬咲き
	花壇苗	ペチュニア、ベゴニア、サルビアほか	春まき
	野菜	トマト	桃太郎ファイト、キャロル10
桃太郎8、麗夏、キャロル10、アイコ			ハウス雨よけ夏秋どり
かぼちゃ		えびす、くりほまれ、雪マロン、雪化粧、TC2A (ほっとけ栗たん)	露地早熟
レタス		スパーク、シルル	春夏まき
スイートコーン		みわくのコーン、ゴールドラッシュ、味来390、 ピュアホワイト	露地直播
たまねぎ		スーパー北もみじ、北早生3号	春まき
キャベツ		アーリーボール、楽園	晩春まき
ほうれんそう		サイクロン、ブライトン	春夏まき雨よけ
だいこん		貴宮、夏つかさ	春まき、初夏まき
メロン		ルピアレッド、G08、北かれん、FG14(ファ イングリーン)、ティアラ	無加温半促成
いちご		エッチェス-138(夏実)、ほほえみ家族	夏秋どり(高設栽培)
ピーマン		さらら、みおぎ	半促成
ブロッコリー		ピクセル、緑嶺	晩春まき
ねぎ		北の匠、元蔵	夏秋どり
アスパラガス		ゼンユウガリバー、ガインリム、スーパーウエル カム、ウエルカム	露地
	ウエルカム、ガインリム	ハウス立茎	

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

## VI 研究発表並びに普及事項

### 1. 研究報告・資料

#### (1) 研究報告

○福川英司・高濱雅幹・地子立・江原清・八木亮治. 黒皮系カボチャ品種の特性と貯蔵性の検討. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 99:107-113(2014).

○大宮知・玉掛秀人・生方雅男. 小輪性L Aハイブリッドユリ新品種「ピカリ」の育成. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 98:25-32(2014).

○白井佳代・美濃健一. ジャガイモ疫病による塊茎腐敗抵抗性検定法の改良. 農試集報. 99:115-120(2015)

○Kawagishi, K., A.Kawaguchi, Y.Kakizaki, M.Goto. Year-round strawberry production system in Hokkaido, the northernmost region of Japan. Acta Horticulturae. 1049:813-818.

#### (2) 口頭発表

○多田梨恵、岡本淳、長野克則、葛隆生、中村真人、八木裕紀子、杉野堯子、生方雅男、和田弘志、井上行雄：寒冷地園芸施設向けの低コストで実用的な地中熱提供方法の開発、その3 地中熱ヒートポンプ加温・冷却システムの性能評価および植物の生育評価、空気調和衛生工学会北海道支部第49回学術講演会（2015.3）

○木村文彦・福川英司. 種子繁殖型イチゴ‘よつぼし’の北海道における夏秋どり栽培の可能（第1報）既存種子繁殖型品種との特性比較. 北海道園芸研究談話会報. 48:100-101(2015).

○木村文彦・濱野恵・福川英司. 育苗方法および長日処理が夏秋どり作型におけるイチゴ種子繁殖型品種‘よつぼし’の頂花房出蕾と収量に及ぼす影響. 園芸学研究. 14(別1):157(2015).

○井口工・森利樹・北村八祥・小堀純奈・今村仁・鶴山浄真・西田美沙子・前田ふみ・濱野恵・木村文彦. イチゴ種子繁殖型品種‘よつぼし’の葉齢と地域の違いが長日処理による花成誘導に及ぼす影響. 園芸学研究. 14(別1):156(2015).

○濱野恵・木村文彦. イチゴ種子繁殖型品種‘よつぼし’の夏秋どり栽培における出蕾に及ぼす長

日処理の影響. 園芸学研究. 14(別1):322(2015).

○大宮知・黒島学・田中静幸. ビブルナム‘スノーボール’の切り枝抑制開花における品質向上のための生け水調製. 北海道園芸研究談話会報. 48:14-15(2015).

○大宮知・黒島学・田中静幸. ビブルナム‘スノーボール’の切り枝抑制開花における品質向上のための生け水調製. 平成26年度北海道花き懇話会シンポジウム(2014.12.2)

○大宮知・南部達彦・植松徹. 花ユリ‘ピカリ’のりん片繁殖子球による切り花栽培における遮光の影響について. 平成26年度北海道花き懇話会シンポジウム(2014.12.2)

○野田智昭・林哲央. 寒冷地のキャベツ栽培におけるセル育苗ポット内増肥によるリン酸施肥量の削減. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 60:(2014)

○野田智昭・加藤桂一・後藤英次. 氷詰め発泡箱包装と比較した雰囲気調整フィルム「Xtend」のブロッコリーに対する鮮度保持効果. 園芸学研究. 14(別冊1). 251:(2015)

○白井佳代. タマネギべと病菌分生子の凍結保存. 日本植物病理学会報. 81(1):93-94(2015)

○畑中和人・川岸康司・小田義信・岸田幸也・宮町良治. タマネギの移植遅れが収量・品質に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 48:62-63.(2015).

○國分圭亮・川岸康司・熊谷美希・梶山幸道・小田義信. 栽培年数が異なる露地普通春どり作型のアスパラガスにおける根張りの比較. 北海道園芸研究談話会報. 48:86-87.(2015).

○山口菜並・氣田みゆき・小山ひとみ・尾関由利子・山口猛彦・佐々木高行・川岸康司. 大玉トマト‘桃太郎8’の着色程度と糖度および食味の関係. 北海道園芸研究談話会報. 48:30-31.(2015).

○矢吹聖文・平岡享誠・大牟田望・関戸美子・山口猛彦・佐々木高行・川岸康司. スーパースイート系スイートコーンの保管方法が糖度に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 48:106-107.(2015).

○鈴木亮子. 北海道産の花をもっと楽しみましょ  
う. 第43回ランチタイムセミナー(2014.7.18).

### (3) 著書・資料

○角野晶大. イチゴ葉縁退緑病、ニンジン黒葉枯  
病、セルリー斑点病、セルリー腐敗病. 北海道病  
害虫防除提要

○橋本直樹. アスパラガスのツマグロアオカシミ  
カメ、ヤーコンのエゾギクトリバ、カラーのアザ  
ミウマ類、カラーのナミハダニ、ダリアのフキノ  
メイガ、ブルーベリーのオウトウショウジョウバ  
エ、ライラックのマエアカスカシノメイガ. 北海  
道病害虫防除提要

○白井佳代. イネ褐条病、イネいもち病、ジャガ  
イモ夏疫病. 北海道病害虫防除提要

○鈴木亮子(共同編集). 北海道野菜地図(その  
38). 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホ  
クレン農業共同組合連合会(2015).

○川岸康司. 北海道の食材(野菜類). 北海道フ  
ードマイスター検定公式テキスト. pp.32-97. 札  
幌商工会議所(2014.7).

○鈴木亮子. スターチス・シヌアータの黄化クレ  
ームをなくすには? あぐりぽーと. 109:10. (201  
4).

○鈴木亮子. スターチス・シヌアータ採花後の温  
度管理と品種選定による茎葉黄化対策. ニューカ  
ントリー. 62(2):58-59(2015).

○鈴木亮子. 今月の作業 切り花. ニューカント  
リー. 62(2):73(2015).

○鈴木亮子. 今月の作業 切り花. ニューカント  
リー. 62(3):76(2015).

○鈴木亮子(共同執筆). 「北海道農業入門」新  
規就農者向けテキスト花き編. 北海道農政部(20  
15).

### (4) 専門雑誌・記事等

○福川英司. 有機JAS規格に対応したタマネギ育苗  
技術～有機栽培向け培土で移植精度を上げる固化  
剤利用法. 農家の友. 66(7):98-99(2014).

○大久保進一. トマト3段どり栽培 高単価が期待  
できる9月に出荷ピーク. ニューカントリー.  
61(7):54-55(2014).

○大久保進一. ミニトマトの夏期摘房と側枝利用.

農家の友. 93(7):186-189(2014.7)

○田中静幸. たまねぎの時間⑥除草. ニューカン  
トリー. 724. (株)北海道協同組合通信社. 34-35  
(2014)

○鈴木亮子. スターチス・シヌアータの黄化クレ  
ームをなくすには? あぐりぽーと. 109号:10p

○鈴木亮子. スターチス・シヌアータ採花後の温  
度管理と品種選定による茎葉黄化対策. ニューカ  
ントリー. 62(2):58-59(2015).

○鈴木亮子. 今月の作業 切り花. ニューカント  
リー. 62(2):73(2015).

○鈴木亮子. 今月の作業 切り花. ニューカント  
リー. 62(3):76(2015).

### (5) 新聞記事・広報誌、放送等

○大久保進一. トマト3段どり栽培. 農業共済新  
聞. 5月4週号:13(2014.5)

○トマト秋季安定生産. 日本農業新聞:北海道地  
方欄(2014.6.10)

○田中静幸. H26.11.19 HTBイチオシ! 「住民もビ  
ックリ “ど根性” 野菜の正体」

○野田智昭. 短節間かぼちゃの省力施肥技術. グ  
リーンレポート. 31(1):10-11(2015.1)

○野田智昭. 緩効性肥料を上手に使う短節間カ  
ボチャを作ろう農業共済新聞. 6月1週号:9(20  
14.6.4)

○鈴木亮子. 庭に華やかさをプラス 夏のアヤメ  
科. 花新聞ほっかいどう. (2014.8.13)

### (6) 出願公表

ばれいしょ「コナユタカ」登録出願公表 29267号  
(2014.06.06)

たまねぎ「KTM9843-02-01A」登録出願公表 29291号  
(2014.10.28)

たまねぎ「KTM9843-02-01B」登録出願公表 29292号  
(2014/10/28)

### (7) 品種登録

該当なし

### (8) 受賞

該当なし

## 2. 印刷刊行物

該当なし

## 3. 普及事項

### (1) 普及奨励事項

該当なし

### (2) 普及推進事項

- 赤肉メロン新品種候補「空知交 23 号」
- 北海道におけるさつまいもの栽培特性

### (3) 指導参考事項

- 8,9月どり露地ねぎの品種特性
- たまねぎに対する除草剤「KUH-043 顆粒水和剤」の実用化
- たまねぎに対する除草剤「NK-1101 水和剤」の実用化
- スイカ炭疽病の防除対策
- にんじんの黒葉枯病に対するペンチオピラド水和剤 F の効果
- ねぎのべと病に対するマンゼブ・メタラキシル M 水和剤 DF の効果
- すいかの炭疽病に対するマンゼブ水和剤の効果
- たまねぎの白斑葉枯病に対するフルオピラム水和剤 F (未登録) の効果
- ブロッコリーのアブラムシ類に対するピリフルキナゾン水和剤 DF の効果
- ブロッコリーのヨトウガに対するトラロメトリン水和剤 F の効果
- カリフラワーのコナガに対するフルベンジアミド水和剤 DF の効果
- すいかのワタアブラムシに対するピリフルキナゾン水和剤 DF の効果

### (4) 研究参考事項

該当なし

## Ⅶ その他

### 1. 職員の研修

#### (1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
角野 晶大	植物病理学会部会	植物病理学会	札幌市	26.10.16～26.10.16
後藤 英次	野菜茶業課題別研究会	野菜茶業研究所	名古屋市	26.11.18～26.11.19
田丸 浩幸	土壌肥料学会部会	土壌肥料学会	札幌市	26.12.3～26.12.4
木村 文彦	園芸学会春季大会	園芸学会	千葉市	27.3.27～27.3.29
鈴木 亮子	園芸学会春季大会	園芸学会	千葉市	27.3.27～27.3.29

#### (2) 職場研修（集合・伝達研修）

研修内容	実施月日	時間	講師	参加人数
職場研修（情報交換会）	26.10.20	1:30	(株)プランディア代表取締役・鈴木幹也	16
職場研修（健康づくりセミナー）	26.12.3	10:30	道総研本部非常勤職員・保健師	31

### 2. 見学・参観

月日	団体名（人数）	月日	団体名（人数）
5月21日	道立農業大学校畑作園芸経学科 〔本別長〕（32）	7月9日	北みらい農業協同組合〔北見市〕（14）
5月30日	全南農業マイスター大学(社)韓国温室 作物研究室〔全羅南道〕（16）	7月9日	清里町農業委員会（14）
6月17日	北海道農薬卸協同組合〔札幌市〕（25）	7月17日	古谷徳紀〔長沼町〕（1）
6月17日	東京地区花きホクレン会（東京都、札幌市）（23）	7月24日	ホクレン農業協同組合連合会 肥料農薬部〔札幌市〕（35）
6月26日	峰延農業協同組合〔美唄市〕（30）	7月24日	道立農業大学校畑作園芸経学科 〔本別長〕（16）
6月26日	北空知女性農業者グループ「きらる」 〔深川市〕（18）	7月30・31日	滝川市福寿大学〔滝川市教育委員会〕（60）
6月27日	美唄市開発地区女性農業者 研修会（20）	8月5・6日	北海道大学農学部生物資源科 〔札幌市〕（75）
7月1日	空知中央農業共済組合〔岩見沢市〕（40）	8月6日	北海道種苗協同組合〔札幌市〕（20）
7月1日	鹿追町農業振興協議会（25）	8月11日	留萌農業改良普及センター園芸部会 〔羽幌町〕（10）
7月2日	美唄市婦人団体連絡協議会（46）	8月29日	北海道大学・ブリジストン〔札幌市〕（6）
7月3日	新しのつ村「もぎたて市」部会 〔JA新篠津〕（20）	8月29日	北海道大学大学院農学研究院・ 明治大学大学院〔札幌市・東京都〕（14）
7月7日	帯広市川西白ねぎ生産組合 〔JA帯広かわにし〕（20）	8月29日	北育ち元気村花き生産組合北竜支部 〔北空知広域農協連・深川市〕（15）
7月8日	芽室町野菜苗生産組合〔JAむむろ〕（6）	9月3日	佐賀大学農学部附属アグリ創生教育 センター〔佐賀市〕（1）
7月9日	JA北いしかり女性部厚田ブロック 〔石狩市〕（33）	9月4日	國學院久我山中学〔東京都〕（3）

- 9月11日 山梨県立農林高等学校 [甲斐市] (29)
- 9月12日 拓殖大学北海道短期大学 [深川市] (65)
- 9月17日 北海道種苗協同組合夏季研修会  
[札幌市] (20)
- 9月26日 広島県立西条農業高等学校  
[東広島市] (30)
- 9月27日 JICA「モザンビーク」[滝川市] (10)
- 月 日 団 体 名 (人数)**
- 10月7日 学校法人八紘学園(北海道農業専門学校) [札幌市] (10)
- 10月10日 JAふらのの中富良野支所トマトキュウリ  
部会 [中富良野町] (6)
- 10月10日 農研機構花き研究所 愛知県農業総合  
試験場 (2)
- 10月14日 空知農業改良普及センター北空知支所  
[深川市] (7)
- 10月22日 北海道大学大学院農学研究院・  
JICA「キルギス」(10)
- 10月23日 北海道経済部産業振興課  
[札幌市・滝川市] (30)
- 11月13日 鹿追町農業委員会 (14)

月	団体数	人 数
4月	0	0
5月	2	48
6月	5	116
7月	13	330
8月	6	140
9月	7	188
10月	5	63
11月	1	14
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	39団体	869人

### 3. 研修生の受入れ（研修事業以外）

#### (1) 普及指導員研修

#### 1) 新任者集合研修 7/2～7/10

研修項目	対 象 者	担 当
道内主要野菜・花栽培に関する基礎的技術の習得	空知(本所)三宅 平 空知(北空知)林 和希 渡島(本所)萩原淳史 渡島(本所)元島美彩 上川(本所)有田匡志 上川(富良野)火ノ川祐貴 宗谷(本所)後藤賢治 網走(美幌)今野弘規 十勝(本所)石川弘大 十勝(東部)佐々木えり子 十勝(北部)坂井由香里 釧路(本所)中川奈穂子 釧路(東部)酒井麻子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

#### 2) 専門技術研修（野菜） 6/26～6/29

研修項目	対 象 者	担 当
野菜の花芽検鏡・接ぎ木技術・品質分析技術技術の習得	渡島(南部)山口泰輔 石狩(北部)五十嵐美由紀 渡島(本所)深尾伸一 上川(士別)加賀屋綾子 檜山(本所)小澤 徹	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

#### 3) 高度専門技術研修（野菜）

6/4～6/8, 7/30～8/3, 9/3～9/7

研修項目	対 象 者	担 当
トマト・メロン・いちご・かぼちゃ・葉菜類栽培技術の習得	空知(南東部)八重樫有紀 空知(中空知)下田祐規子 日高(西部)福原比奈子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

#### 4) 専門技術研修（花き） 6/26～6/29

研修項目	対 象 者	担 当
主要花きの品種特性、新技術、挿し木等の繁殖技術の習得	空知(北空知)小林佐代 石狩(北部)浦上 渉	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

#### 5) 高度専門技術研修（花き）

6/18～6/22, 7/30～8/3, 9/3～9/7

研修項目	対 象 者	担 当
花き開花調節技術、	後志(本所)寺西範晃 胆振(東胆振)千石由利子	技術普及課、 技術普及室、

品質保持 技術等の 習得	技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G
--------------------	---------------------------

## 4. 委員会活動

### (1) 各専門委員会の名簿

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

#### ア. 業務委員会

川岸康司(委員長)、岩橋広樹(総務課)、大久保進一(花き野菜G)、田丸浩幸、白井佳代(生産環境G)、小田義信、及川 忠、南 貴夫、(技術研修G)

#### イ. 環境整備委員会

田中静幸(委員長)、岩橋広樹(総務課)、後藤英次(生産環境G)、鈴木亮子、玉川 忠(技術研修G)

#### ウ. 情報・図書委員会

角野晶大(委員長)、白木和美、土田操(総務課)、大宮 知(花き野菜G)、橋本直樹(生産環境G)、熊谷美希(技術研修G)

#### エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

### (2) 各専門委員会の活動

#### 1) 業務委員会

##### ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月3日～11月27日、毎週1回
- (イ) 冬期：12月25日～3月26日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月11日

##### イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事(排水路、暗渠)
- (エ) ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

##### ウ. 主催行事

- (ア) 植栽&ご苦労さん会 6月18日
- (イ) 収穫祭 10月24日

#### 2) 環境整備委員会

(ア) 展望台：ラベンダー、グラウンドカバープランツ、小果樹園の管理

- (イ) 庁舎前花壇：マリーゴールド他(6/18)、

チューリップ(10/23)の定植

(ウ) 旧十勝道路沿い：清掃、ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い

(エ) その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

### 3) 情報・図書委員会

#### ア. 情報図書委員会の開催

- ・第1回(4月21日)：活動・予算計画
- ・第2回(3月18日)：活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

#### イ. 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサル(5月20日)
- ・総合研修生の参加呼びかけ
- ・ハウス群の試験内容の掲載

#### ウ. 場の広報に関する事

- ・パンフレットの作成
- ・平成25年度年報の作成とHP掲載
- ・平成23～25年度年報の印刷物の配布
- ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新(技術研修Gに実施いただいた)

#### エ. 法人情報システム(含むホームページ)の管理・運営に関する事

- ・HP統一画面への変更作業
- ・HPの更新(センターナウ5回、営農技術対策7回、研修情報他広報関連16回、事務関連3回の合計31回更新)
- ・当センター設備使用の新設
- ・技術研修担当者(ブログ)、場長の独り言(ブログ)、さつまいも栽培マニュアルの外部リンクの追加
- ・場代表アドレスの管理(研究部長対応)

#### オ. 図書の整備(購入)および管理に関する事。

- ・図書資料の受け入れと購入
- ・雑誌類や成績書の簡易製本の実施

## 5. 公開デー 2014 の実施

8月5日(火)に実施。

(来場者数：188名)

(ア) 屋内会場の催し物

○フラワーデザインセミナー(技術研修G)

○切り花染色実験(花き野菜G)

- 病害虫診断コーナー（生産環境G）
- 土壌診断コーナー（生産環境G）
- 園芸相談コーナー（技術研修G）
- パネル展示コーナー
- 塗り絵コーナー
- マチローパーティー
- 展示温室：ダリア・ジニア・サルビア・コリウス・クリサンセマム・トマト・オクラ・白ごま・らっかせい・綿花・バジル・三尺ササゲ
- （イ）屋外会場の催し物
- メロン品種の試食(花き野菜G)
- さわって当てようクイズ(花き野菜G)
- 農業機械展示（技術研修G）
- 飲食及び農産加工品直売コーナー  
滝川食と農を考える女性の会  
手作りの家とまと
- YES!clean展示
- バスによる圃場見学
- 研修生による生産物の試食、販売

## 6. 講師等の派遣

- 福川英司. レタス品種圃場検討会ほか. 北海道種苗協同組合平成26年度夏季研修会(2014.8.6)
- 福川英司. ねぎ品種圃場検討会ほか. 北海道種苗協同組合平成26年度夏季研修会Ⅱ(2014.9.17)
- 福川英司. カボチャの突起果の発生原因解明と防除対策. 北海道種苗協同組合平成26年度冬季研修会(2015.2.20)
- 福川英司. 道総研におけるたまねぎ有機栽培用育苗培土開発の取り組みと今後の課題. 上川有機農業セミナー(2015.2.2)
- 福川英司. 赤肉メロン新品種「空知交23号」. 北海道種苗協同組合平成26年度冬季研修会(2015.2.20)
- 福川英司. 食用種子ペポカボチャ品種「ストライプペポ」の安定生産技術. 北海道種苗協同組合平成26年度冬季研修会(2015.2.20)
- 福川英司. 平成26年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫. 北海道種苗協同組合平成26年度冬季研修会(2015.2.20)
- 福川英司. 農試よりの新技術、ほか. 北海道種苗協同組合平成26年度冬季研修会(2015.2.20)

- 大宮知. 北空知広域連花木類部会 ビバーナム・スノーボール現地講習会(2014.4.24)
- 大宮知. 北空知広域連花木類部会 ビバーナム・スノーボール現地講習会・出荷目揃会(2014.5.30)
- 大宮知. 平成26年度北海道花き生産連合会カーネーション部会講習会(2015.2.13)
- 大宮知. 当別花卉生産組合栽培技術講習会(2015.3.25)
- 八木亮治. 花・野菜技術センターと(株)大学農園の共同育成系統「空知交23号」の特性. 第43回キングメルテール会総会(2014.12.2)
- 角野晶大. スイカ炭疽病防除対策について. JAふらの(2015.3.16.)
- 鈴木亮子・大宮知. 収穫後の枝整理について. 北育ち元気村花き生産組合花木類部会現地講習会(2014.5.30)
- 鈴木亮子. スターチス・シヌアータの黄化クレームをなくすには. JAむかわ花き栽培講習会(2014.6.19)
- 鈴木亮子. 花きセミナー2014より. JA南るもい花き生産組合反省会(2014.12.15)

## 7. 各種委員

- 田中静幸 「園芸学研究」H27 園芸学会査読委員
- 田中静幸 ニューカントリー連載「農学校一年一組 アスパラガス」監修
- 鈴木亮子. 北海道野菜地図編集委員
- 川岸康司. 北海道フードマイスター検定運営委員、現行小委員



## Ⅷ 自己点検への対応

事 項	点数	備 考
重点研究課題	0	
経常研究課題数	13	切り花ダリア、いちごの新品種育成、さつまいも等
公募型研究への応募課題数	3	花持ち保証、種子イチゴイノベーション、地中熱の利用等
一般共同研究課題数	2	赤肉メロン育種
民間受託研究課題数等	13	民間受託(8)、道受託(3)、奨励研究(1)、国独法受託等(1)
研究成果発表会の開催件数	1	新技術セミナー(126名)
発表会・展示会等への出展件数	3	サイエンスパーク、札幌花き市場まつり、マッチング・フェア
普及組織と連携した普及状況	10	空知地域農業技術支援会議、滝上町シバヅクラ対策等
学会誌、雑誌などへの投稿	2	たまねぎ新品種「カロエワン」等
学会・研究会・新技術発表会等への発表	9	「北海道における野菜の鮮度保持の状況」等
技術相談の実施状況	134	
雑誌、書籍、新聞等における研究成果	16	雑誌(9)、書籍(4)、新聞(3)
技術指導の実施状況	123	メロン、イチゴ、花き類現地栽培支援等
技術審査件の実施状況	0	
研修会・講習会等の開催状況	13	花きセミナー、カボチャセミナー等(総計549名)
研修者の延べ受入人数	18	専門技術研修、総合技術研修、インターン、フォローアップセミナー、基礎技術研修等(総計103名)
視察者・見学者の受入件数	40	総計869名
道民向けセミナーの開催件数	2	市民園芸セミナー(22名)、フラワーデザインセミナー(21名)
公開デー等の延べ参加者数	188	8月5日開催
学会等役員・委員等件数	17	北海道野菜地図編集委員、北海道型施設園芸高度推進協議会、北海道フードマイスター運営委員等
国際協力事業等への協力件数	6	モンゴル、モザンビーク、キルギス等(総計39名)
道関係部との連絡会議等の開催件数	8	北海道野菜ブランド品種認定委員会、次世代施設園芸導入事業等
市町村との意見交換等の開催件数	3	ナタネ除草剤試験打合せ・作業(滝川市)
国内研修Ⅱ(学会等)の派遣件数	5	野菜茶業課題別研究会、土壌肥料学会、園芸学会春季大会等
企業等への訪問件数	4	
関係団体等との意見交換等の開催件数	4	東京ホクレン会、北海道次世代施設園芸コンソーシアム等
職場研修	2	花きの流通における品質保持技術に関する情報交換会、健康づくりセミナー等
ホームページ更新件数	31	
グリーン購入の金額	1,715千円	トナーカートリッジ、アルカリ乾電池等

ISSN 1346-7506

---

---

平成26年度（2014）

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター年報

---

平成28年2月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 （総務課）

Fax. 0125-28-2299 （研究部、技術普及室）

---

---